

# 新聞活用の可能性を探る

姫路市立白鷺中学校 校長 米田淳二

教諭 佐伯奈津子

## 1、学校としての取り組み

～はじめに～

本校は、1学年2学級、特別支援学級2クラスの小規模校である。平成23年度に初めてNIE実践校に指定され、本年度で3年目奨励枠での実践となり、国語科・社会科を中心に新聞を使った学習に取り組んできた。

年々、新聞を取っていない家庭が増え新聞を手に入る機会が少ない生徒が多くなる中、このNIEの時間は子どもたちが新聞にふれあう貴重な時間となっている。

今年度は昨年度に引き続き、新聞に親しみをもたせるとともに、新聞記事を読むことで、自らの思考力・判断力・表現力の育成、自ら調べ自ら学ぶ自学力を伸ばすことを目的に授業づくりや教材づくりを促進させるべく、昨年以上に様々な教科や活動の中で新聞活用ができないか新聞の可能性を探った。

～コラムの書き写し～

今年度、2年生で新しく取り組んだのが、「コラムの書き写し」である。夏休みの課題として出した、「ひょうご新聞感想文コンクール」の参加賞の一つとして、コラムの書き写しノートの体験版をいただいたので、週に一回コラムを書き写す課題を出すことにした。

金曜日になると、コラムの切り抜きをノートに貼り、ひたすら原稿用紙の形式で書き写していく。それまで漢字をあまり書けなかった生徒もこれをきっかけに漢字を意識して使う姿が見られるようになった。この課題を始めて記事を通して思ったことを感想欄にまとめたり子どもたちも楽しんで取り組んでいたように思う。書き写しに関しても初めは時間もかかり面倒に思っていた生徒も、回数を重ねることにより短い時間で仕上げられるようになり、この面でも自分の成長を実感できているようであった。

毎週1回コラムを  
書き写して学習



## 2、実践事項

～朝の時間を利用して～

本校では昨年に引き続き、朝の10分間の読書時間を利用して、週に1回新聞の読みとりをし、まとめる学習をしてきた。新聞の内容は、その時々々の時事ニュースや地域の記事を使った。

25年度に取り上げた記事および学習内容は下記のとおりである。

- ・愛されたあざらしの巻 (人気者であるあっかんべーあざらしがなくなった記事)
- ・日本一の朝食の巻 (神戸のホテルピエナが朝食第一位に)
- ・姫路でアフリカを体験の巻 (姫路のアフリカ料理のお店の記事)
- ・世界文化遺産に登録の巻 (富士山が世界文化遺産に登録される)
- ・熱中症を防ごうの巻 (熱中症にならないための水分補給法)
- ・読書感想文の巻 (AKBひとりひとりが読書感想文を書く)
- ・官兵衛の兜の巻 (黒田官兵衛の兜の形をした杯を観月会で発売)
- ・ボイジャー1号宇宙旅行の巻 (ボイジャー1号が太陽系を出たという記事)
- ・リニアモーターカーの巻 (リニアモーターカーの計画が本格的にスタート)
- ・姫路でロケの巻 (黒田官兵衛のロケについて)
- ・メタボ記者神戸マラソンで走るの巻 (神戸マラソンに向けて、記者がトレーニング)
- ・伊勢神宮と式年遷宮の巻 (記念の新聞を読んでわかったことをまとめる)
- ・海外に広まっている和食の巻 (和食が無形文化遺産に登録されるかもという記事)
- ・家族について考えようの巻 (乙武さんのお父さんが家族を大事にしていた話)
- ・和食が無形文化遺産に！の巻 (和食が無形文化遺産に登録される)
- ・「山の日」ができる??の巻 (祝日「山の日」ができるかもという記事)
- ・阪神大震災を今に伝えるの巻 (長田の「こうべの壁」について)
- ・変わる大学入試の巻 (センター試験の形から大学入試が変わる?!)
- ・ジュンク堂の歴史の巻 (震災時のジュンク堂や名前の由来を紹介)
- ・30歳のリケジョの巻 (小保方さんがSTAP細胞発見)
- ・メダルはいくつ?の巻 (ソチ冬季オリンピックについて)

このようにその時々々のフレッシュな時事ニュースや地域の情報を取り上げることができたのも、NIE推進組織から複数の新聞社の新聞を提供してもらったおかげである。様々なジャンルの記事を教材として取り上げるにあたり、複数の新聞を比較して子どもたちに合った資料を選び出すことが可能となりNIE学習を進める上で大きな助けとなった。

### ～読者投稿欄を通して～

国語科の時間を利用して日頃思っていることや考えていることを400字ほどでまとめ、新聞投稿欄に出す取り組みを今年も続けた。本校の生徒作品が掲載された新聞記事は印刷をし、全校生徒に配布したり職員室前に掲示したりしている。

本年度は、本校の生徒が部活を通して他校の生徒と交流することができたという投稿文の内容を受けて一般読者が感想を投稿してくださったり、学校行事である文化発表会を通して思ったことを保護者が投稿してくださったりする嬉しい出来事があった。読者投稿欄を通して、生徒だけではなく、家庭や地域社会にもNIEが広まりつつあり、とても手ごたえを感じる1年となった。



生徒の投稿文が掲示されている



保護者の投稿文を掲示

### ～新聞から震災を学ぶ～

毎年、本校の2年生は神戸に校外学習に出かけている。班でテーマを決め調べ学習をする中で、「阪神・淡路大震災」についての記事を使って事前学習をした。その中で、阪神・淡路大震災の際に焼け残り、当時の様子を伝える長田の「こうべの壁」についての記事があり、「災害を忘れないためにこの壁を残すべきだ」という意見と「昔の辛い思い出がよみがえるので残さないで欲しい」という両方の意見があることをこの記事で知ることができた。

神戸校外学習の際、神戸新聞社本社横のニュースポートに足を運び、阪神・淡路大震災を経験した記者から当時の神戸新聞社や街の様子を聞くという貴重な体験をした。また、ニュースポートには、震災直後の新聞や写真が多く展示されており、震災を経験していない子どもたちでも「命の大切さ」「助け合いの重要性」を学ぶことができ、よい1日となった。



記者から当時の話を聞く子どもたち

### 3、実践の感想と今後の課題

～「朝のNIE学習を通して」生徒の感想～

朝の10分間のNIE学習を振り返り、生徒たちに思ったことを書いてもらった。

- 知らなかったことが知れてよかったです。このおかげで家族に教えたりして少し物知りになれた気分で、役立っているなと思いました。(中1)
- 新聞を読んで世の中を知ることができ、ニュースに関心を持つようになりました。(中1)
- 3年になってNIEがもっと活用できるようになればいいなと思いました。生活の役に立つこともあるのでやっていてよかったと思いました。(中2)
- 時事ニュースなどや私たちの行事に合わせた学習で、知りたいことを手軽に得られる時間でした。来年も続けたいです。(中2)
- 回数を重ねるたびに答えを探すのが早くなり、ポイントをおさえられるようになりました。(中3)
- 家では新聞をとっていないので新聞を読むいい機会でした。世の中で話題を集めている事柄を知ることができてよかったです。(中3)

～実践者の感想と今後の課題～

平成23年度からスタートしたNIE学習も今年ではや3年目となった。朝の10分間に新聞記事を読むというスタイルはすっかり子どもたちの中にも、定着しつつある。10分間という短い時間であるが、「今日はどんな記事が紹介されるのだろう」と心待ちにしてくれている生徒も多くなってきており、新聞記事選びが私の中でも楽しみの一つとなってきている。

今回の生徒たちの感想を読んでいると、NIEで取り上げた新聞記事が子どもたちと社会をつなぐ重要な役割をになってくれていたことに気づいた。中学生ともなると日々勉強に部活に習いごとにと忙しく、活動場所が「学校」「家庭」「習いごとの教室」に限られてくるが、新聞に触れることで、普段知ることが難しい社会の出来事や人の想いや事柄に触れることができた。これにより様々な考え方があること、隠れた人々の苦勞を知ることができ、子どもたちの人間の幅も広がったように思う。

また、何より嬉しいことが、新聞を通して「新しいことを知ると楽しい」と思う生徒が増えてきたことである。「知らないことを知る楽しさ」は、学習の喜びであり原動力である。「もっと知りたい」という気持ちが子どもたちの自学力の育成につながっていくと思うので、魅力的な記事の選択を心がけるとともに、今後もNIEの可能性を探っていこうと思う次第である。